

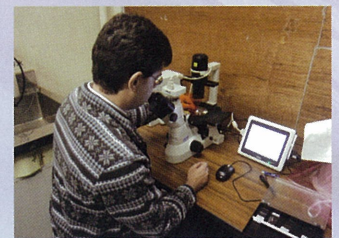
# 2013 ACTIVITY DIGEST

2013年  
活動実績  
ダイジェスト

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

## Contents

滋賀医科大学のこの1年 .....	01
SUMSプロジェクト .....	02
教育 .....	03
研究 .....	05
診療 .....	07
国際交流 .....	09
社会貢献 .....	11
財務状況 .....	12
コンプライアンスの取り組み .....	13
業務運営・改善 .....	14



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

# 滋賀医科大学のこの1年

2013年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学宣誓式、大学院入学宣誓式</li> <li>・全学フォーラム</li> <li>・5機関新人職員合同研修会</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松医科大学との交流会</li> <li>・解剖体納骨慰霊法要</li> <li>・京都薬科大学とのジョイント・シンポジウム</li> <li>・ミシガン州立大学等の学生12名を実地研修生として受入</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開放型基礎医学教育センター(メディカルミュージアム)開所式</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴル健康科学大学と交流協約締結</li> <li>・関連病院長会議</li> <li>・学外有識者会議</li> <li>・第1回 技術・知見コラボレーションセミナー</li> <li>・オープンキャンパス(医学科)</li> <li>・オープンキャンパス(看護学科)</li> <li>・報道機関との懇談会</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画推進のための県民参加シンポジウム</li> <li>・第2回 技術・知見コラボレーションセミナー</li> <li>・地域「里親」学生支援の宿泊研修</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震防災訓練</li> <li>・第3回 技術・知見コラボレーションセミナー</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学科第2年次後期学士編入学並びに秋季大学院医学系研究科博士課程・修士課程入学宣誓式</li> <li>・学位授与式</li> <li>・アジア疫学研究センター開所式、記念国際シンポジウム</li> <li>・分子神経科学研究センター創立25周年記念国際シンポジウム</li> <li>・バイオ・ジャパン2013ワールド・ビジネス・フォーラム出展</li> <li>・解剖体慰霊式</li> <li>・若鮎祭(学園祭)</li> <li>・メディカルスタッフ研修&amp;発表会</li> <li>・研究動物慰霊式</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生等バス研修旅行</li> <li>・第4回 技術・知見コラボレーションセミナー</li> <li>・国際交流協定締結大学等との国際シンポジウム</li> <li>・近畿地区国立大学長人権問題懇談会</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿地区国立学校会計事務打合せ研究会</li> <li>・事務職員、技術職員研修・業務成果発表会</li> </ul>
2014年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント防止に関する講演会</li> <li>・JSTとの女性研究者研究活動支援事業の進捗状況等に関する意見交換</li> <li>・病院機能評価受審</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回 技術・知見コラボレーションセミナー</li> <li>・近畿12国立大学と大規模災害発生時における協定締結</li> <li>・第3回ホームカミングデイ</li> <li>・インドネシア大学と学術交流協定締結</li> <li>・マレーシア国民大学を訪問、研修者が交流</li> <li>・嘉田滋賀県知事が視察</li> <li>・北京大学公衆衛生大学院教授が学長室を表敬訪問</li> <li>・個別学力試験(前期日程)</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を支える人材を育むための研修</li> <li>・全学フォーラム</li> <li>・学外有識者会議</li> <li>・学位授与式、卒業式</li> <li>・博士課程教育リーディングプログラム「アジアNCD超克プロジェクト」説明会</li> <li>・地域「里親」学生支援の宿泊研修</li> <li>・スチューデント・ドクター認定式</li> </ul>

# 「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」

法人化第二期(2010~2015)の目標をSUMS project 2010-2015「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」にまとめました。これは第一期にえられた成果を生かし、さらに充実発展に向けたものであります。

## 1

### 地域基盤型教育・研修 (Society-based Education)

地域基盤型教育を推進し、医療福祉の分野で活躍する人材を育成する。

- ① 早期体験実習、患者宅訪問授業、模擬患者の会や里親との交流の充実、医学科定員増に対応した設備や学習環境の整備
- ② Science, Arts, Ethics を軸としたカリキュラム編成  
基本的知識と最新医学の知見、スキルズラボの活用  
医療水準Ⅱの確保と臨床実習の評価基準、継続的な倫理教育
- ③ 医師・看護師国家試験合格率、各々95%以上、98%以上の達成
- ④ 任期付教職員の導入による業務の活性化
- ⑤ 優秀教員の表彰、優秀学生の奨学金給付、学生支援の拡充
- ⑥ 魅力ある研修プログラムによる総合医、専門医、地域医療支援医師の養成
- ⑦ メディカルスタッフの教育プログラムの推進

## 2

### 独創的研究 (Unique Research)

基礎医学と臨床医学との融合による新領域の研究を展開する。

- ① 重点研究と独創的各個研究の推進
- ② 研究グループの組織化による研究の強化
- ③ 大学院学生数100%確保、留学生の在学生数の増加
- ④ 教職員海外研修や留学生等の支援による国際交流の促進
- ⑤ 産学連携の推進

## 3

### 充実した医療 (Mindful Medical Service)

先進医療と高度医療を推進し、地域医療に貢献する。

- ① 先進医療と高度医療の推進
- ② オーダーメイド医療の開発
- ③ 再生医療への取組
- ④ 低侵襲医療
- ⑤ 地域における不可欠な医療分野の強化

## 4

### 戦略的組織活性化 (Strategic, activated Service)

組織の活性化で大学の機能を向上する。

- ① 教職員のキャリアアップ支援体制
- ② 業務の省力化、効率化にむけたボトムアップ体制の強化
- ③ 積極的な情報公開
- ④ 男女共同参画社会の実現に向けた具体的取組
- ⑤ エコプロジェクトの推進
- ⑥ 収支バランスの改善によるソフト面の強化

## 高い国家試験合格者を維持するための取り組み

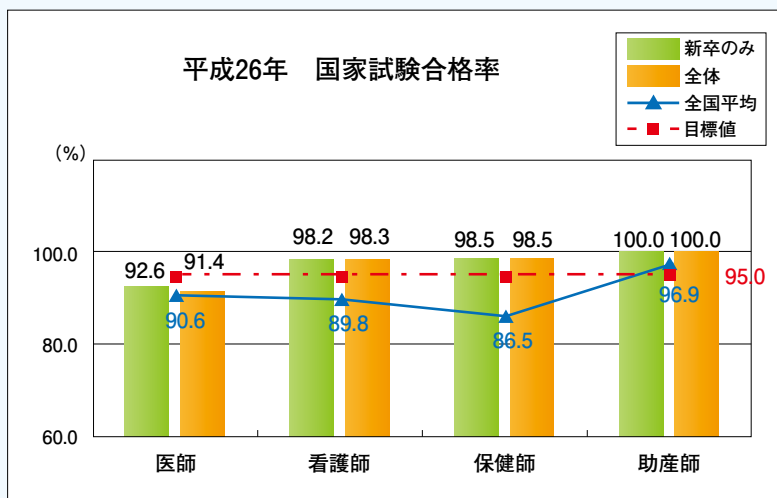
模擬試験や卒業試験の結果を分析し、個々の学生に合わせた支援を継続的に実施しています。

### 医学科

- ・マンツーマン方式のきめ細かい指導
- ・学年担任による個別面談
- ・不得意な分野の補講の実施
- ・学習室の確保 など

### 看護学科

- ・研究担当教員による個別指導
- ・学習時間の確保
- ・既卒学生もフォロー など



## 教養教育における教員の交流

- 滋賀大学 佐野准教授による「医療経済学」の講義を実施
- 浜松医科大学 大磯教授による「医療法学」の講義を実施

### 学生の感想

- 具体的な事例を紹介されて、とてもわかりやすかった。
- 医師の視点にたった法律の解説で新鮮だった。
- 将来負うべき責任や医療に携わる姿勢を意識させられた。



大磯教授の講義

- 本学 医療文化学講座(哲学)室寺教授が、浜松医科大学で講義を実施

本学と浜松医科大学とは、平成24年11月教育研究等の連携・協力に関する包括協定を締結しました。

## 全人的医療体験学習履修の学生を患者等が評価

全人的医療体験学習で1年半にわたり患者宅を訪問した医学科2年生23人に対し、患者さん及びその家族から、学習についての評価を受けました。

評価はいずれも大変好意的なもので、学生の今後の学習にとって励みとなりました。

### 患者さん&家族の方々からの評価

- ・常にノートを手記に記録をとり、患者の言葉を逃さず受け答える態度には好感が持てた。
- ・熱心に話を聞いて下さった事が、良かった。又、急に障害者になった父への精神的な配慮も頂きました。
- ・勉強しよう、患者の気持ちに添おう、という態度がありがたかった。
- ・会話のみでなく、患者の脈拍を取ったり、体温を測ったりすることにより、患者との繋がりも深まり、会話の質も向上するのではないかと思った。

### 指導医等からの評価

- ・患者と家人の会話を十分時間をかけ、家族の問題点を的確に指摘できた。
- ・1回1回の反省点を次回に修正してきており、積極性を認めた。
- ・患者様の気持ちを理解し、わかりやすい言葉で励ましていた。
- ・担当患者さんの死に対しても、奥さんとしっかり向き合うことができていた。
- ・医療に対してしっかりとした意志を持っている。

## 研究医養成コース 登録コースに9名が登録

研究医養成コースのカリキュラムでは、研究への興味を育てる“入門研究医コース(1・2年生対象)”と、学生各自がテーマを持って研究に参加する“登録研究医コース(3・4年生対象)”を設置しています。

平成25年度には、研究医養成コースの学生を専門的に支援する教員を2名配置しました。

### 研究医養成コースの主な活動

- ・ 学生が互いの活動状況を紹介し合うコースミーティングを毎月ランチタイムに開催
- ・ 夏季休暇中の1週間を使って、研究技術セミナーを開催
- ・ エキスパートによるセミナーを隔月に開催  
(11月には海外のエキスパートによる英語でのプレゼン実施)
- ・ 研究医養成コースの学生4名が学会で発表



コースミーティング



実験の様子

休日は実験を行ったり、他大学などでの学会発表や研究協力などで出張し、交流を深めたり見識を深めたりしています。授業時間が多く、活用できる時間は少ないですが本コースの援助のみならず、研究補助員の制度や授業そのものを活用するなど、活動を意欲的に行っています。

例

### 研究医養成コースに登録学生の1週間

月曜日	AM授業 PM授業 放課後:解剖学講座にて実験
火曜日	AM授業 PM授業
水曜日	AM授業 PM:分子科学センターにて研究補助員 放課後:研究医養成コースセミナー参加(月二度ほど)
木曜日	AM授業 PM授業 放課後:分子科学センターにて研究補助員
金曜日	AM授業 PM授業 放課後:解剖学講座にて実験

## アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクトが「博士課程教育リーディングプログラム※」に採択

※博士課程教育リーディングプログラムとは

優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超えて世界に通用する学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を、文部科学省が支援するものです。

### プログラムの特徴

- ・ 国内唯一のNCD疫学の国際教育研究拠点(アジア疫学研究センター:CERA)を中核にすえた教育研究指導
- ・ 英語コミュニケーションを重視したカリキュラム
- ・ 国際的センスを持つ「行動するトップリーダー」の育成
- ・ 単科医科大学のもつ機動性を生かした教育体制
- ・ 経済面も含め修学に集中できる環境およびキャリアパス支援

## 大学院修士課程「看護管理実践」修了者第1号

平成25年9月、高度専門職コース「看護管理実践」の1名が修了しました。

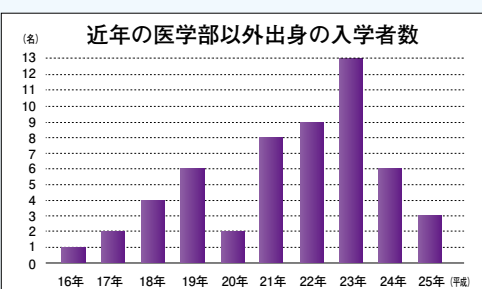
高度専門職コース「看護管理実践」は、実践の場と連動させ看護管理に必要な能力開発を支援するプログラムで、看護協会が実施する認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程修了者を対象としています。

平成25年度秋季入学では、2名が入学し学んでいます。



修了式

## 大学院博士課程5専攻を1専攻3コースに改組



大学院博士課程では、医学部以外出身の入学人数が増加傾向にあることから、平成26年4月から、医学専攻の1専攻に改組し、入学人数の動向に対応した学際的医療人コースを設けるなどの改革を行い、平成26年4月から入学人数を受け入れます。

### 医学専攻

- ・ 先端医学研究者コース
- ・ 高度医療人コース
- ・ 学際的医療人コース

## アジア疫学研究センターを開設

本学は、循環器疾患基礎調査、国民栄養調査の長期追跡調査NIPPON DATAの実施など、我が国の生活習慣病疫学研究において中心的な役割を果たしてきました。それらの成果を踏まえ、今後、アジアにおける疫学研究の拠点となって、循環器疾患及び糖尿病を中心とした各種疾患に関する最先端の疫学研究、国際共同疫学研究の推進を図ることを目的としてアジア疫学研究センターを開設しました。

- 海外からの実績ある疫学研究者等を教員として招聘。
- アジア諸国の研究者を本学大学院博士課程「アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト」により生活習慣病疫学の専門家として育成。



平成25年10月2日、アジア疫学研究センターの開設を祝い、国際シンポジウムを開催しました。

### プログラム内容

#### 〈基調講演〉

- Paul Elliott (インペリアルカレッジロンドン教授)  
「国際疫学共同研究INTERSALT, INTERMAPにおける方法論とその成果」  
Robert D. Abbott (本学アジア疫学研究センター特任教授)  
「日米の循環器疾患危険因子:異文化間比較の試み」

#### 〈アジア国際シンポジウム〉

- 「アジアにおけるNCDと今後の研究課題:公衆衛生および疫学の観点から」  
岡村 智教 (慶応義塾大学教授)  
Nguyen Duy Phong (ホーチミン医科薬科大学准教授)  
Noor Azah Abd Aziz (マレーシア国民大学教授)  
Sohel R. Choudhury (バングラデシュ国立心臓財団病院研究所教授)  
Chimedsuren Ochir (モンゴル健康科学大学教授)

## 重点プロジェクトの推進

本学の特徴を生かした5つの研究を「重点プロジェクト」として推進しています。

### 平成25年度の主な研究成果

#### ■ サルを用いた研究

再生医療実現拠点ネットワークプログラム(技術開発個別課題)に選ばれ、京大iPS研究所と共同で、種々のMHC ホモサル由来のiPS細胞の作成と顕微鏡受精による数頭のMHCヘテロザル候補の作成に成功しました。

#### ■ 神経難病研究

アルツハイマー病の鼻分泌液サンプルによる診断法は、耳鼻咽喉科学講座、附属病院もの忘れ外来、臨床研究開発センターと共同で臨床研究を実施しています。また、アルツハイマー病の発症及び病態進行に重要な役割を果たす新たな分子を同定し、解析を進め、成果を、国際学術誌(Cell Mol Life Sci)に発表しました。

#### ■ 生活習慣病医学

バージニア大学Abbott教授が、平成25年9月1日、アジア疫学研究センター特任教授として着任しました。厚生労働省指定研究(研究代表者:三浦克之)が5年計画で新規採択され、5,000万円の研究費を獲得しました。NIPPON DATAの研究成果により、魚介類由来の脂肪酸摂取が多い人ほど、長期間循環器疾患死亡リスクが低いことを明らかにし、新聞等で全国に報道されました。

#### ■ 総合がん医療推進研究

肺癌ペプチドワクチン療法医師主導型治験の症例登録は予定通り登録全症例の投与・観察を終了し、データ固定\*と解析に移行しました。

\*データ固定とは:データ解析前に、収集したデータに関し、逸脱症例の検討、データの読み合わせ等を行うこと。

## 若手研究者の独創的な研究を支援

本学では毎年、若手研究者の研究活動を促進するため、大学院生を含む若手研究者の独創的な発想に基づく萌芽的研究を支援する助成事業を実施しています。平成25年度は37件の応募があり、16件の研究課題を採択しました。

審査方法

- ・ 研究分野を6分野(代謝系、生理・免疫系、再生・がん系、脳外科系、画像系、看護系)に分けて公募
- ・ 分野に応じて審査を実施
- ・ 研究内容を5段階で評価
- ・ 独創性を3段階で評価



翌年度には、採択された研究者による、研究成果発表会を開催し、他の研究者との意見交換や研究成果の共有を行っています。また、成果発表に対しても審査が行われ、審査結果のフィードバックにより、若手研究者の研究活動の活性化を図っています。

### 平成25年度 優秀研究者の表彰

研究活動の支援・点検・評価を目的とする研究活動推進室では、毎年、学内の研究について成果を評価し、優秀研究者を選定して表彰を行っています。

**優秀研究者：堀江 稔 教授 (内科学講座)**

「QT延長症候群のカリウムチャンネル遺伝子変異とカテコラミンによるカリウム電流の修飾」



受賞者からの言葉

この研究は、ある種の不整脈疾患で、運動時に心電図上のQT時間が著しく延長し、その結果、特異的な心室性不整脈が起これ、失神や心臓突然死を起こす疾患群があるのですが、その運動に伴うQT時間延長のメカニズムを明らかとしたものです。西安交通大学の薬理学教室から研究にいらしていた呉先生と今年の春に大学院を修了した内貴先生の共同研究で、実験については、本学生理学教室、松浦教授のひとかたならぬご支援をいただきました。わたしは、研究のテーマとそのアイデアを提案した訳で、本当の受賞者は、この論文に関わったすべての研究者だと思います。今後も、循環器疾患のより良い診断と治療のため、臨床と直結した研究を進めていきたいと考えております。

※論文は、J Am Coll Cardiolに掲載されました。

## TOPICS

『「滋賀健康創生」特区』が、平成25年9月13日、国の地域活性化総合特区の指定を受けました。

『「滋賀健康創生」特区』とは、びわこ南部地域における医学・理工系大学の知的資源と高度なものづくり技術を活かし、地域経済の持続的発展と県民がいきいきと暮らす社会の実現を目指すものであり、地域の力を結集し、地域住民の「健康づくり」を促進する新たな地域モデルの構築に取り組んでいます。

これらの取り組みに対し、本学では、以下のような研究・活動を実施しています。

医療機器の開発

「血液一滴で高度な診断を可能とする血液分析システム」

特長

- ・ 血液一滴で簡単に検査が可能
- ・ 生化学、免疫、電解質の同時検査が可能
- ・ 結果がすぐにわかり高度な診断が可能

地域の「健康づくり」を医療、学術面から指導評価

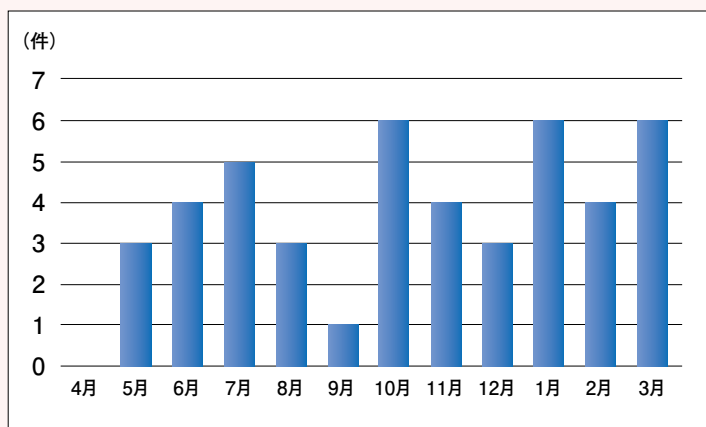
- ・ 糖尿病、高血圧、心筋梗塞などの生活習慣について、発症要因を明らかにする研究を通じて、「健康支援サービス」へのサポートを実施

## 内視鏡手術支援ロボット ダ・ヴィンチを導入

滋賀県では初めてとなる内視鏡手術支援ロボットdaVinci（ダ・ヴィンチ）サージカルシステムを導入し、5月から稼働を開始しています。

内視鏡手術支援ロボットは、医師が3D画像を見ながらロボットを遠隔操作することにより、安全で正確な手術を行うことが可能となります。

平成25年度は、泌尿器科の前立腺摘出術を45件実施しました。

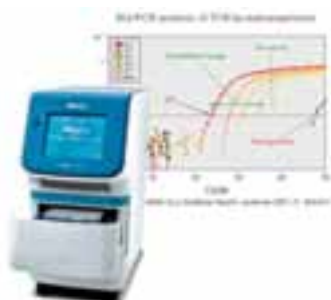


## 先進医療の推進

平成25年度、新たに2件の先進医療が承認され、計6件の先進医療を実施しています。

### 〈新たに承認された先進医療〉

#### 急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定



##### 概要

小児の急性リンパ性白血病の治療効果を判定するため、光学顕微鏡では判定困難な白血病細胞の残存(微小残存病変)をRQ-PCR法という遺伝子検出方法で測定するものです。この結果を基に、より良い治療方針を決定することができます。

##### 対象疾患

急性リンパ性白血病、又は非ホジキンリンパ腫であって初発時に骨髄浸潤を認めるリンパ芽球性リンパ腫若しくはバーキットリンパ腫

#### 前眼部三次元画像解析



##### 概要

前眼部OCT (Optical Coherence Tomography) という機械を用いることにより、角膜・隅角・虹彩・水晶体といった眼の前の部分(前眼部)を詳しく検査することが出来るようになりました。機械が直接眼に触れることはないの痛みもなく、かつ短時間で検査出来ます。これまでの検査法では困難だった角膜の詳しい形状や、緑内障における隅角や虹彩の状態、水晶体の状態などを画像解析することが可能になりました。

##### 対象疾患

緑内障、角膜ジストロフィー、角膜白斑、角膜変性、角膜不正乱視、水疱性角膜症、円錐角膜若しくは水晶体疾患又は角膜移植術後



## 救急医療・災害医療の体制整備

滋賀県災害拠点病院として、ヘリポートを新設しました。  
また、救命救急センターの指定に向けた体制整備を進めています。

平成25年度の救急車搬入患者数は、2,504人で、他病院からの重症救急患者を積極的に受け入れています。

平成25年4月より総合周産期母子医療センターとして県の認定を受け、M F I C U※(6床)を開設しました。  
多くの母体搬送を受け入れ、出生後から加療が必要な新生児に対して積極的な治療にあたっています。

※MFICU(母体胎児集中治療室: Maternal Fetal Intensive Care Unit)とは  
重い妊娠中毒症や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室の略称。



ヘリポート

## TOPICS

### 江口教授が滋賀県救急医療功労者知事表彰を受賞しました。

江口教授は、本院救急・集中治療部長としての医療活動に加え、滋賀県消防学校の非常勤講師を務めるなど、救急医療体制の整備・充実に貢献したとして表彰されました。

救急医療週間の平成25年9月10日、滋賀県庁において「救急医療功労者表彰式」が行われ、江口教授は「滋賀県は南北に長いので、都市部以外でも診療ができる医師を育てることが重要。救急医にとどまらず、急性期疾患に対応できる医師を育てていきたい。」と語りました。

## 附属病院ホームページをリニューアル 医療の質に関する指標(QI)を公表

WGを立ち上げ、より分かりやすい情報の発信を目指し検討を重ね、平成25年11月リニューアルした附属病院ホームページを公開しました。

### 改訂後のホームページの特徴

- (1) 患者目線での見やすいデザインとレイアウト
- (2) 利用者別の3つの入口を中央に配置
- (3) 特色ある治療法や医療機器の紹介で本院の医療をアピール
- (4) 医療の質の指標(QI:クオリティインディケーター)の公表



### ◆クオリティインディケーターとは

外来患者数や入院患者数などだけでなく、治療や手術、医師の教育や研究などを含め、医療の質を示す活動に関する実績を数値で示したものです。

### ◆クオリティインディケーター測定目的

測定結果を病院職員が把握し、改善を図ることにより、提供する医療の“質”が向上し、患者さんや病院に還元されることです。

滋賀医科大学附属病院ホームページは以下のURLからご覧ください。

<http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/>

## 国際交流協定締結大学等との国際シンポジウムを開催

平成25年11月18日(月)、学術交流協定を締結する「哈爾濱医科大学」「チョーライ病院」「ホーチミン医科薬科大学」「マレーシア国民大学」から医学部長等11名の研究者を迎え、国際シンポジウムを開催しました。



午前中は、本学を含め各大学等の紹介を兼ねた、「各大学の医学教育の問題点について」をテーマにプレゼンテーションと全体討論を行い、活発な意見交換が行われました。



午後は、分子神経科学研究センターと外科に分かれて分科会を開催し、研究者間の交流が図られました。

### 〈分科会テーマ〉

分子神経科学研究センター：SUMS留学生の研究成果発表

外科チーム：外科における留学生の教育研究に関する意見交換



また、大学や附属病院の施設見学を行い、友好を深めました。

### 学内施設見学

・メディカルミュージアム ・薬剤部 ・放射線部 ・検査部 ・リハビリテーション部 ・小児科病棟 ・ICU

# International Exchange

## インドネシア大学と学術交流協定を締結

インドネシア大学医学部との交流は、2011年インドネシア大学脳神経外科の研修者が、本学野崎和彦教授のもとで1年間研修されたのを契機として、交流がはじまりました。

昨夏には、野崎教授がインドネシア大学や国立脳センター等において臨床指導を行い、その後も指導を継続しています。これらの交流を通じて、両大学の交流協定を締結することとなりました。

2月13日(木)、馬場学長と相浦国際交流支援室長等がインドネシア大学を訪問し、インドネシア大学Muhammad Anis学長代行と学術交流のための協定書調印式を執り行いました。

今後、この交流協定のもと、両校の学生、教職員の活発な交流が行われることが期待されます。



国際交流

## マレーシア国民大学との研究交流

2月16～18日には、本学のリーディング大学院の紹介や研究者の交流を目的に、服部隆則副学長等6名が、学術交流協定校であるマレーシア国民大学を訪問しました。合同会議や研究交流、施設見学を行い、実り多い訪問となりました。



## 看護職における国際交流

看護部では、11月14日、中国上海市の病院とベトナム国ホーチミン市の病院看護部長等3名を招き、「中国とベトナムの看護事情」をテーマに国際交流セッションを開催し、医療従事者間の交流を図りました。



### 講演内容

- ・ 大学院での研究課題 ～そして中国で看護師として勤務する中で見えてきた看護
- ・ プナン医院における看護部長としての役割
- ・ ベトナムの看護の発展のためのチョーライ病院の役割



## 小・中・高校に対する教育サービス

●草津市教育委員会が実施している、様々な分野で活躍するスペシャリストによる特別授業「各界トップのスペシャル授業in草津」で、平成25年12月11日、生理学講座(細胞機能生理学部門)松浦 博教授が、「心臓のしくみとはたらき」をテーマに、草津市立老上小・中学校(250名の生徒・児童)に対し、授業を行いました。心臓の構造や自動性のメカニズムについて、ビデオや動画を使いながら、わかりやすく説明を行い、子供達からは、普段疑問に思っていることなど、活発な質問がありました。松浦教授は、生徒・児童の皆さんに、「自分から進んで勉強する姿勢を身につけ、積極的にいろいろなことに挑戦してください」とメッセージを送りました。



●高大連携事業は、例年どおり、膳所高等学校、虎姫高等学校、立命館守山高等学校、彦根東高等学校、石山高等学校、東大津高等学校から生徒を受け入れ、模擬授業、メディカルミュージアムでの実習、病院見学などを行いました。また、平成25年度は、新たに県外の西宮市仁川学院中学校から高大連携事業の依頼があり、実施しました。

高校名	事業内容	対象
膳所高校	基礎医学講座8回と病院見学、夏休み1日実習	2年生 医学関係に興味のある生徒
	講義と実習 1日	1年生 理数科の生徒
虎姫高校	SSH*サマーセミナー 2日	2年生 医学科、看護学科進路希望生徒
立命館守山高校	医療基礎セミナー8回 夏休み1日実習と病院見学	フロンティアサイエンスコース2年生 医学・医療関係に興味のある生徒
	講義に教員1名を派遣	1年生の医学部入門講座
彦根東高校	SSH大学訪問研修(講義とメディカルミュージアム見学)	1～2年生
石山高校	大学見学会(講義とメディカルミュージアム見学)	1年生
東大津高校	高大連携講座(講義2日)	1～2年生 看護系進学志望生徒
河瀬中学校	大学訪問・見学会(大学概要説明とメディカルミュージアム見学)	3年生
仁川学院中学校(西宮市)	大学体験授業(講義とメディカルミュージアム見学)	1～3年生 医学系大学希望生徒
滋賀県教育委員会(膳所高校主幹校)	スーパーサイエンスハイスクールコアSSH事業	膳所高校ほかコアSSH参加校4校の2年生と教諭

●看護学科では、小・中学校からの依頼を受け、禁煙教育や薬物依存防止研修にも積極的に対応しました。

\*SSH:文部科学省の指定により、高等学校において、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の存り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組を推進する事業。

## 開放型基礎医学教育センター (Medical Museum) の活用

平成25年6月28日、開放型基礎医学教育センターの収蔵品の展示施設として、SUMSメディカルミュージアムが完成し、開所式を行いました。開放型基礎医学教育センターでは、本学が収蔵する様々な教育資料を利用して、地域の医療人の育成や理科教育に活用していただくことを目的としています。

### (Medical Museumの利用状況)

- ・見学の受け入れ件数(オープンキャンパスを含む):19件
- ・物品貸し出し:17件
- ・出前実験:3件
- ・新聞報道:4件
- ・出版物での紹介:3件
- ・テレビでの紹介:1件
- ・紹介の講演:2件

■ Medical Museumホームページ <http://www.sums-mm.com/>



## 地域医療への貢献

「滋賀県地域医療再生計画」に基づき、東近江市の国公立3病院(国立病院機構滋賀病院、東近江市立能登川病院、東近江市立蒲生病院)の集約化、再編が行われ、平成25年4月に「国立病院機構東近江総合医療センター」が開院しました。

本学は、東近江総合医療センターへ各診療科から30名以上の医師を派遣し、地域医療再生計画の実行および新病棟の運営体制の整備に貢献しています。

また、東近江総合医療センターを拠点とする総合内科学講座・総合外科学講座において、学生及び研修医の総合医育成のための実習・研修を担当しています。

# 財務の状況 Finance

## [貸借対照表について]

資産の部は、24年度47,644百万円でしたが25年度は46,473百万円に減少しています。

主な要因は、アジア疫学研究センターや附属病院ヘリポート等の竣工により建物等が増加しましたが、減価償却費の負担が増えたため、固定資産が減少したことによります。

また、負債の部でも24年度29,722百万円でしたが25年度は27,925百万円に減少しています。これは、長期借入金及びリース債務の返済等によるものです。

(単位：百万円)

資産の部			
	①平成24年度	②平成25年度	増減 ②-①
I 固定資産	36,274	35,106	△ 1,168
1.有形固定資産	36,023	35,048	△ 975
土地	10,163	10,163	0
建物及び構築物	18,229	18,390	161
工具器具備品	5,939	4,899	△ 1,040
図書	1,526	1,505	△ 20
その他の有形固定資産	166	92	△ 75
2.無形固定資産	48	57	10
3.投資その他の資産	203	0	△ 203
II 流動資産	11,370	11,367	△ 3
現金及び預金	6,268	5,678	△ 590
未収附属病院収入	4,184	4,300	115
有価証券	200	202	2
たな卸資産	399	417	18
その他の流動資産	319	771	452
資産合計	47,644	46,473	△ 1,171

(単位：百万円)

負債の部			
	①平成24年度	②平成25年度	増減 ②-①
I 固定負債	21,208	19,444	△ 1,764
資産見返負債	3,997	4,024	27
長期借入金	16,188	14,976	△ 1,211
退職手当引当金	176	192	15
長期リース債務	789	195	△ 595
資産除去債務	58	58	0
その他の固定負債	0	0	0
II 流動負債	8,514	8,481	△ 33
運営費交付金債務	172	0	△ 172
寄附金債務	1,421	1,272	△ 149
前受受託研究費等	211	211	0
一年以内返済長期借入金	1,167	1,211	45
未払金	4,114	4,134	20
賞与引当金	267	284	17
リース債務	695	595	△ 100
その他の流動負債	467	773	306
負債の合計	29,722	27,925	△ 1,797

純資産の部			
	①平成24年度	②平成25年度	増減 ②-①
I 資本金	14,100	14,100	0
II 資本剰余金	3,100	3,923	823
III 利益剰余金	723	525	△ 198
前中期目標期間繰越積立金	358	358	0
目的積立金	47	0	△ 47
積立金	0	317	317
当期末処分利益(損失)	317	△ 150	△ 468
純資産合計	17,922	18,548	626
負債・純資産 合計	47,644	46,473	△ 1,171

## [損益計算書について]

経常収益は、24年度27,451百万円から25年度は28,095百万円に増加しています。主な要因は、附属病院収益が298百万円増加したことや寄附金収益の164百万円増加によるものです。

経常費用は、24年度27,112百万円でしたが25年度は28,287百万円に増加しています。内訳をみますと、診療経費の増加269百万円、研究経費の増加90百万円、人件費の増加695百万円となっています。人件費は退職手当の増が主な要因の1つです。

その結果、経常利益の増加644百万円が経常費用の増加1,175百万円を下回っており、25年度の当期総損失は150百万円となりました。

(単位：百万円)

費用			
	①平成24年度	②平成25年度	増減 ②-①
業務費	23,295	24,446	1,151
教育経費	468	477	9
研究経費	732	822	90
診療経費	9,928	10,197	269
教育研究支援経費	110	135	25
受託研究事業費	531	595	64
人件費	11,526	12,220	695
一般管理費	510	573	63
財務費用	312	280	△ 32
減価償却費	2,995	2,988	△ 7
合計	27,112	28,287	1,175

(単位：百万円)

収益			
	①平成24年度	②平成25年度	増減 ②-①
運営費交付金収益	5,235	5,224	△ 11
学生納付金収益	646	607	△ 39
附属病院収益	19,210	19,508	298
受託研究等収益	680	773	93
寄附金収益	523	687	164
施設費収益	69	132	63
補助金等収益	280	299	19
財務収益	11	11	0
雑益	269	279	10
資産見返負債戻入	529	575	46
合計	27,451	28,095	644

	①平成24年度	②平成25年度	増減 ②-①
経常利益(経常損益)	340	△ 193	△ 533
臨時損失	24	9	△ 15
臨時利益	2	4	2
目的積立金取崩額	-	47	47
当期総利益(損失)	317	△ 150	△ 467

※百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計額と一致しないことがあります。

### コンプライアンス委員会を設置

人材育成を担う大学においては、倫理観を備えることは大切であり、構成員全員が法令や社会的規範、企業倫理を遵守(コンプライアンス)することは基本であります。

本学では、コンプライアンスを持続的かつ能動的に企画・推進するため学長、理事等による「コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンスプログラムを策定・実施して意識啓発を行っています。

特に、平成25年度は、臨床研究において問題が発覚したことから、研究倫理に対する体制強化に取り組みました。

#### ■平成25年度の主な取組事例

##### ①コンプライアンスプログラムの実施

研修・セミナー等	開催日	参加者数
人権に関する研修	平成25年4月 2日(火)	165人
個人情報保護に関する研修	平成25年4月 2日(火)	164人
コンプライアンスに関する研修会	平成25年9月13日(金)	152人
科学研究費補助金応募説明会	平成25年10月8日(火)	75人
情報セキュリティ講習会	平成25年12月3日(火)	31人
ハラスメント防止に関する講習会	平成26年1月16日(木)	83人
コンプライアンス研修	平成26年2月20日(木)	26人
個人情報保護に関する研修	平成26年3月 6日(木)	45人



- ②研究者及び研究支援者に関する行動規範を策定し、倫理的な判断と行動の認識を強化
- ③役員並びに教職員の行動規範を策定し、倫理的な判断と行動の認識を強化
- ④公的研究費の適正な執行に関する理解度チェックシートによるアンケート調査を実施
- ⑤四半期ごと、不正防止に係る啓発メールを発信
- ⑥利益相反マネージメント規程を改正し、研究に関する透明性を確保
- ⑦情報セキュリティに関するリーフレット(電子版)を作成し、メールで全教職員に周知

## TOPICS

### 〈学内施設の整備状況〉



臨床講義室

**臨床講義室:** 建築後35年が経過しており、経年劣化による老朽化が著しく、機能面にも問題があったため、改修整備を行いました。以前は急こう配で使いにくかった床の傾斜を緩やかにし、座席数も増加、明るい雰囲気 of 講義室に生まれ変わりました。最新型の空調照明機器を導入し、壁や窓の断熱性能も上げて環境にも配慮しています。



福利厚生棟

**福利厚生棟:** 耐震補強を中心とした改修工事を行いました。併せて、多様な用途に対応した学習・交流スペースを整備したほか、車椅子対応エレベーターも設置しました。最新型の空調照明機器を導入し、壁や窓の断熱性能も上げて環境にも配慮しています。



体育館

**体育館:** 災害時には避難所としての機能も期待されており、今回の改修では天井に設置されている照明や球技施設の落下防止対策を施したほか、バリアフリー便所や暖房設備を整備しました。経年による劣化が目立っていた床や壁面も修繕しました。

### 事務職員、技術職員研修・業務成果発表会

平成21年度から実施してきた「業務改善等発表会」を改め、事務職員や技術職員が、受講した研修の成果発表や日頃の業務課題等への取り組みを発表することにより、プレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とした「事務職員、技術職員研修・業務成果発表会」を、平成25年12月20日に開催しました。

海外研修参加者や学外の研修及びセミナー参加者からの成果報告、日頃の業務のなかでの業務改善案や教職員宿舍の改修プラン等、8件の発表があり、発表後には、聴講者から多くの質問がありました。

海外・学外研修等では、学内ではできない多くの経験ができ、満足できる成果が得られたとの発表があり、このような成果発表会を開催することにより、多くの教職員が積極的に研修に参加し、職場環境が活性化されることが望めます。

#### 発表テーマ

- ・コクダイパン会議に参加して～参加者として、実行委員として～
- ・事務職員海外研修を受講して ・クオリティマネジャー養成セミナーに参加して
- ・医科学研究用カニクイザル個体情報の研究利用者への円滑な提供を目指して
- ・実験実習支援センターの新規利用講習会の改善と問題点 ・南笠職員宿舍再生プラン
- ・施設設備のトラブル・事故の再発防止に向けた取組 ・出張旅費システムのWEB版への切り替え

### 大学を支える人材を育むための研修

平成26年3月1日(土)、「大学を支える人材を育むための研修」を開催しました。

昨年度までの宿泊研修から一日の研修に変更し、役員及び教職員計86名(男性63名、女性23名)が参加しました。

「地域に支えられ世界に挑戦する大学」と題した馬場学長の講話に始まり、午前午後を通し、コミュニケーション研修が行われました。また、本学経営協議会委員であり、サンライズ出版(株)代表取締役の岩根順子氏から「近江商人に学ぶ 近江商人共通の理念『三方よし』」のミニ講義を受けました。

今回の研修では、普段、顔を合わせることの少ない異職種の職員と交流が図られ、コミュニケーションについて考え直すことができ、教職協働を進める有意義な機会となりました。



学長の講話



岩根氏のミニ講義

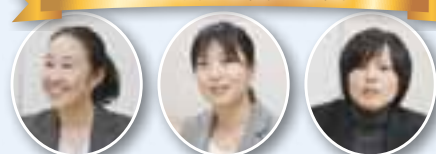


コミュニケーション研修では、12グループに分かれ、個人・グループ・ペアワークにより、アサーティブコミュニケーション「言いにくいことを伝える」に取り組みました。

### 「滋賀医科大学女性研究者賞」及び「女性研究者支援員制度」の創設

優秀な女性研究者の研究活動を表彰することを目的として、「女性研究者賞」を創設し、8名の応募の中から、代表論文の評価や研究の独創性、発展性など厳正な審査を経て3名の教員を選出し、平成25年10月1日、賞状と副賞を授与しました。

#### 女性研究者賞の受賞



村木講師

小嶋助教

森本講師

**最優秀賞** 麻酔科助教 小嶋亜希子「麻酔薬の心筋保護メカニズムについての研究」

**優秀賞** 眼科講師 村木早苗「杆体一色覚で見出された網膜錐体cGMP依存症カチオンチャンネルA3サブユニットのミスセンス変異の機能的解析」

臨床看護講座講師 森本明子「2型糖尿病発症までのインスリン分泌能・抵抗性・糖代謝能の自然史の解明—インスリン分泌不全者に着眼して—」

また、育児や介護等により研究時間の確保が困難な女性研究者の研究継続を支援するため、「支援員制度」を創設し、3名の研究者に対し研究支援者を配置しました。

### 業務改善 重点改善テーマの進捗

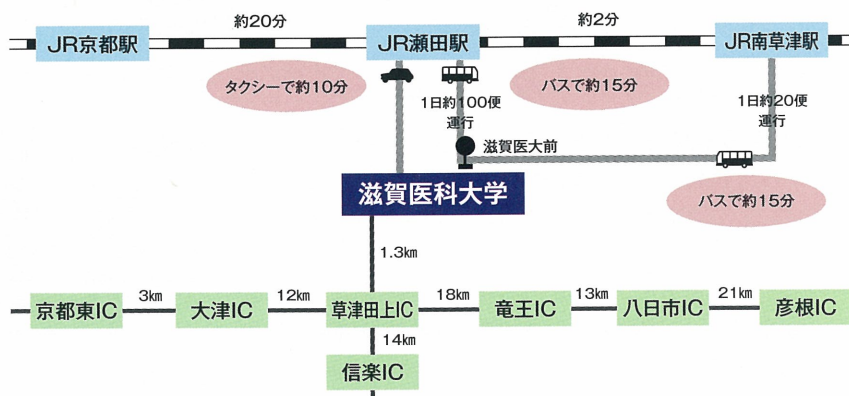
外部コンサルタントによる事務業務の分析により抽出された、重点改善5テーマについては、「業務改善実行ロードマップ」を作成し、検討・実施に向け進めています。

「勤怠管理業務」については、平成26年2月から、事務部門の職員で、運用を開始しました。

将来的には、出勤簿や休暇申請などの様式が廃止され、業務の効率化、ペーパーレス化が実現できます。



<http://www.shiga-med.ac.jp/>



ご意見等の  
連絡先

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただきたいと考えています。お気づきの点等がございましたら、企画調整室にご連絡くださいますよう、よろしくお願いいたします。

滋賀医科大学 企画調整室

TEL ● 077-548-2011  
E-mail ● hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp  
住所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町